

# 学習内容の系統性を踏まえた言語活動について

言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。コミュニケーションを行う相手、目的、場面・状況を明確にすることが大切である。そうすることにより、児童が主体的に言語活動に取り組むことができ、思考力・判断力・表現力等が育成されていく。そのため、伝え合う必然性のある場面を設定して言語活動を行うことが求められる。

## 1. 学習内容の系統性を踏まえた言語活動とは

既習表現を繰り返し活用し、児童の思考力・判断力・表現力等が高められる言語活動

学習する単元前後の学習内容を踏まえて、単元のゴールを明確にした言語活動

伝える相手、目的、場面・状況を明確にした言語活動

## 2. 言語活動例

### 聞くこと

#### “Who am I? Quiz”

学校の教員数名の写真を児童に見せ、興味を持たせる。封筒に写真を戻し、“Who am I? I like blue. I like soccer.”などと前時から慣れ親しんだ語句を用いてヒントを出す。聞く必然性が生まれ、児童は正解を導き出すために、積極的に聞くことが期待できる。

### 話すこと（やり取り）

#### “文房具を買おう”

前時までに音声で慣れしんできた文房具や色、数の言い方を用いて、「友達に贈る文房具セットを考え、買い物をしよう」という活動を設定する。友達に好きな色や持っている文房具、持っていない文房具を尋ねる必然性のある活動である。お店屋さんの活動では、“Here you are.” “Thank you.”などの既習表現も使う。

### 話すこと（発表）

#### “おすすめの国を紹介しよう”

国の代表になって、その国でできることを発表する活動である。例えば、このあと、ALTが最も行ってみたいと思った国を選ぶという活動を取り入れることで、ある国を薦めるために魅力を伝えるという必然性がある活動となる。

### 読むこと

#### “夏休みの思い出日記を読もう”

教材に登場する人物や実際にクラスの仲間が書いた絵日記を読む活動である。ただ英文を読ませるのではなく、「書いた人が誰かを考える」という目的をもって読ませることが大切である。また、この活動を行うまでに、当該英文の音声に十分慣れ親しませる必要がある。

### 書くこと

#### “町紹介をしよう”

自分の住んでいる地域について情報を整理しながら、これまで学習してきた語句や表現を用いて紹介メモを作成し、発表する活動である。紹介メモには、地域にある施設や好きな場所、名産品などの情報を単語で書く。そのメモを用いて相手に伝えるため、書く必然性がある活動である。

## 3. Q&A

### Q. チャンツや歌、発音練習は言語活動ではないの？

これらの活動は、語彙や表現の発音を練習するための活動です。言語活動を成立させるために練習は必要です。単元構成の際、これらの練習が言語活動につながるものになっているか、練習だけで単元が終わっていないかについてよく検討することが必要です。

(小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック P. 23より)